

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月13日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
中国ジェイアールバス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの平均利用者数は9.4人であり、目標の12.9人を達成できなかった。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1便あたりの平均利用者数は15%程度減少。また、利用者の戻りも芳しくない。今後は、アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を行うとともに、路線沿線の協力店舗と引き続き連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。
芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの平均利用者数は9.4人であり、目標の12.9人を達成できなかった。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1便あたりの平均利用者数は15%程度減少。また、利用者の戻りも芳しくない。今後は、アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を行うとともに、路線沿線の協力店舗と引き続き連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。
中国ジェイアールバス株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行(6系統) ①洪・長貫～ショージ～黒瀬支所線 ②洪・長貫～黒瀬支所線 ③八畝ヶ畑～黒瀬支所線 ④洋国団地～黒瀬支所線 ⑤檜原～黒瀬支所線 ⑥上条～黒瀬支所線	地元運行協議会による利用状況調査を実施して利用者ニーズを把握した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 1日あたりの平均利用者数は21.6人で、目標の22.9人を達成できなかった。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前のR1年度と比較し、1日あたりの平均利用者数は13%程度減少。利用者を確保するため、地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月13日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:車両減価償却費等国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
中国ジェイアールバス株式 会社	西条地域におけるフィーダーバス (西条市街地循環バス)の運行 に要する車両購入	引き続き事業を実施	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 目標通り車両を購入し、 フィーダー系統の運行を実 施した。	引き続き事業を実施する。
芸陽バス株式会社	西条地域におけるフィーダーバス (西条市街地循環バス)の運行 に要する車両購入	引き続き事業を実施	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 目標通り車両を購入し、 フィーダー系統の運行を実 施した。	引き続き事業を実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月13日

協議会名:	東広島市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東広島市は、広島県の中央に位置し、面積635.16km²、人口196,608人(R2国勢調査)の都市である。</p> <p>【西条地域】 西条地域は官公庁、大学、病院、商業施設などの様々な施設が集積しており、今後の本市の発展を牽引する地域として、JR西条駅を中心に都市機能強化に向けた取り組みを推進しており、こうした施設を結ぶ交通ネットワークの構築を進める必要がある。</p> <p>また、中心市街地へは比較的近隣から来ている(来街者の約5割は3km圏内)ことを考慮し、中心市街地へのアクセシビリティや回遊性の向上のため、中心市街地の賑わい創出に寄与する公共交通として、平成29年10月から当該地域の主要施設を結ぶ循環バスを新たに運行している。</p> <p>【黒瀬地域】 黒瀬町は東広島市の南部に位置し、幹線道路を路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地は交通不便地域となっている状況から、交通不便地域を解消し、地域住民の日常生活の移動手段の確保と、地域間幹線系統との接続による広域的な移動手段の確保を目的として、地域を運行主体とした、フィーダー系統を平成26年6月23日から運行している。</p>

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 東広島市地域公共交通会議 地域内フィーダー系統確保維持計画(地域内フィーダー系統)の概要



東広島市の概要

- ・平成17年2月に1市5町が合併
- ・人口 196,608人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 635.16km²

東広島市地域公共交通会議の構成員

広島県 東広島市 西日本旅客鉄道(株) 芸陽バス(株)
中国ジェイアールバス(株) 広島電鉄(株) 広島県タクシー協会
市民代表 学識経験者 広島運輸支局 東広島警察署

概 要

【西条地域】

西条地域は官公庁、大学、病院、商業施設などの様々な施設が集積しており、今後の本市の発展を牽引する地域として、JR西条駅を中心に都市機能強化に向けた取り組みを推進しており、こうした施設を結ぶ交通ネットワークの構築を進める必要がある。また、中心市街地へは比較的近隣から来ている(来街者の約5割は3km圏内)ことを考慮し、中心市街地へのアクセス性や回遊性の向上のため、中心市街地の賑わい創出に寄与する公共交通として、平成29年10月から当該地域の主要施設を結ぶ循環バスを新たに運行している。

【黒瀬地域】

黒瀬町は東広島市の南部に位置し、幹線道路を路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地は交通不便地域となっている状況から、交通不便地域を解消し、地域住民の日常生活の移動手段の確保と、地域間幹線系統との接続による広域的な移動手段の確保を目的として、地域を運行主体とした、フィーダー系統を平成26年6月23日から運行している。

協議会の主な取り組み

- ・交通空白地域におけるフィーダー交通の導入
- ・地域公共交通網形成計画の策定及び実施に関すること
- ・地域公共交通再編実施計画の策定及び実施に関すること

協議会における検討

- 協議会の開催状況 (2回開催)
- ・令和3年6月15日 地域内フィーダー系統確保維持計画(R4～R6)について(書面審議)
- ・令和4年1月4日 事業評価について(書面審議)

東広島市地域公共交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

【西条地域】

西条市街地循環バス

(目標) 1便当たり平均利用者数を12.9人以上とする

(効果)

- ・ニーズの高い施設への公共交通でのアクセス性向上
- ・中心市街地の賑わい創出
- ・都市の健全な発展と秩序ある整備につながる交通網の構築

※車両減価償却費補助:補助対象車両数3台

【黒瀬地域】

黒瀬地域内フィーダー系統

(目標) 1日当たり平均利用者数を22.9人以上とする

(運行委託費に地元負担が生じないための利用人数)

(効果)

- ・交通不便地域の解消 ・買い物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・外出機会が増えることによる高齢者の健康増進、生きがい創出

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

【西条地域】

「新しい生活様式を踏まえた目標値設定を検討する」とした点については、アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を先行して行いたいと考えている。また、「協力店舗と連携した公共交通の利用促進を図っていく。」とした点については、継続して連携を行い、利用促進を図った。

【黒瀬地域】

「利用ニーズを運行内容へ反映させていく。」とした点については、地元運行協議会により利用者ニーズを把握し、運行を行った。

実施した利用促進策

【西条地域】

・路線沿線の商業施設等を掲載した バスのガイドブックを配布した。

【黒瀬地域】

・地元運行協議会が主体となって地域の高齢者に直接働きかけ、路線図・時刻表等の配布・PR活動を実施した。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

【西条地域】

「協力店舗と連携しての周知活動といった利用促進事業は継続的に行っていただきたい。」とされた点については、協力店舗と継続して連携を行い、周知活動を含めた利用促進を図った。また、「コロナの状況を踏まえて分析をすることで利用者促進に向けた改善策を見だし、目標の達成、さらには持続可能な交通ネットワークが構築されることを期待する。」とされた点については、コロナの状況が不透明であったことから、改善策について見いだすことができなかった。今後、アフターコロナを見据えた改善策を検討していきたい。

【黒瀬地域】

「地域のニーズに即した取組が実施されることを期待する。」という点については、地元運行協議会による利用実態の把握を継続的にを行い、地域の声に合わせた運行を行った。

地域住民の意見の反映

【西条地域】

地元住民からバス停新設の要望があった箇所について、一定の利用ニーズがあると判断できたため、新規バス停を設置し、利用促進を図った。

【黒瀬地域】

運行主体を地元運行協議会としており、運行ルート、ダイヤについては、地域住民の意見を取り入れたものとなっている。

※地元運行協議会は、住民自治組織を母体としている。

事業実施の適切性

【西条地域】

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
・計画どおり実施されている。

車両減価償却費等国庫補助金
・計画どおり実施されている。

【黒瀬地域】

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
・計画どおり実施されている。

目標・効果達成状況

【西条地域】

(目標)

1便あたりの平均利用者数は9.4人であり、目標の12.9人を達成できなかった。

(効果)

ニーズの高い施設への公共交通でのアクセス性が向上し、地域住民の日常生活の移動手段として活用されている。

【黒瀬地域】

(目標)

1日あたりの平均利用者数は21.6人で、目標の22.9人を達成できなかった。

(効果)

地域の公共交通空白地域が解消され、特に高齢者の生活(買物・通院)の移動手段として活用されている。

事業の今後の改善点

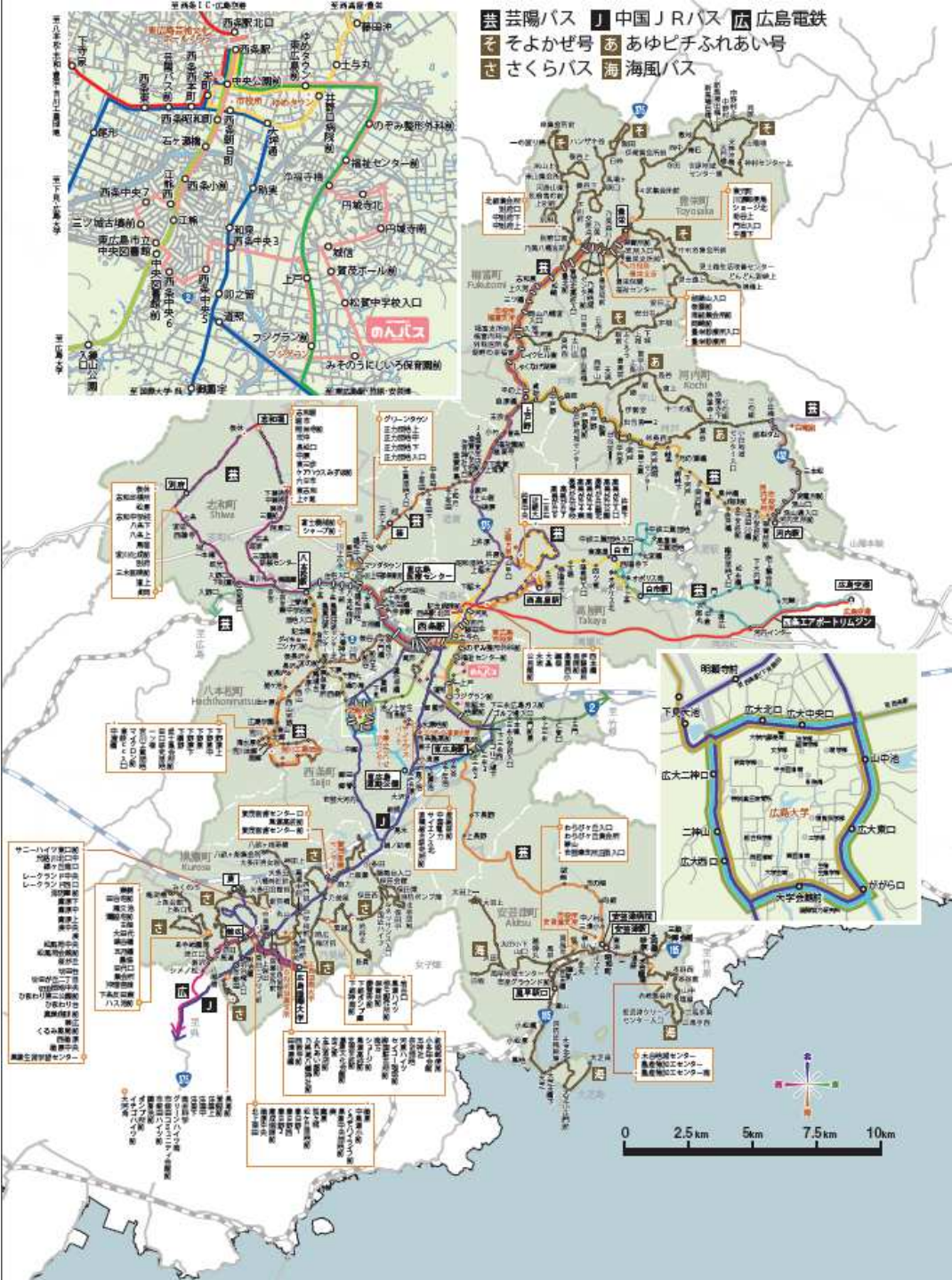
【西条地域】

アフターコロナでの課題を分析し、改善策の検討を行うとともに、路線沿線の協力店舗と引き続き連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。

【黒瀬地域】

利用者を確保するため、地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。

交通体系図 別紙



運行系統図 別紙

系統名 ①洪・長貫～ショージ～黒瀬支所線、②洪・長貫～黒瀬支所線、③八畝ヶ畑～黒瀬支所線、④洋国団地～黒瀬支所線、⑤楢原～黒瀬支所線、⑥上条～黒瀬支所線
 運行形態 4条路線、乗合バス型(定期)
 運行日・便数 月曜日④⑤系統、火曜日②⑥系統、水曜日①系統、木曜日③⑥系統、金曜日④⑤系統 各系統1日4便
 運賃 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

